



# 廿日市市教委だより

令和4年  
1月21日  
第10号



～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

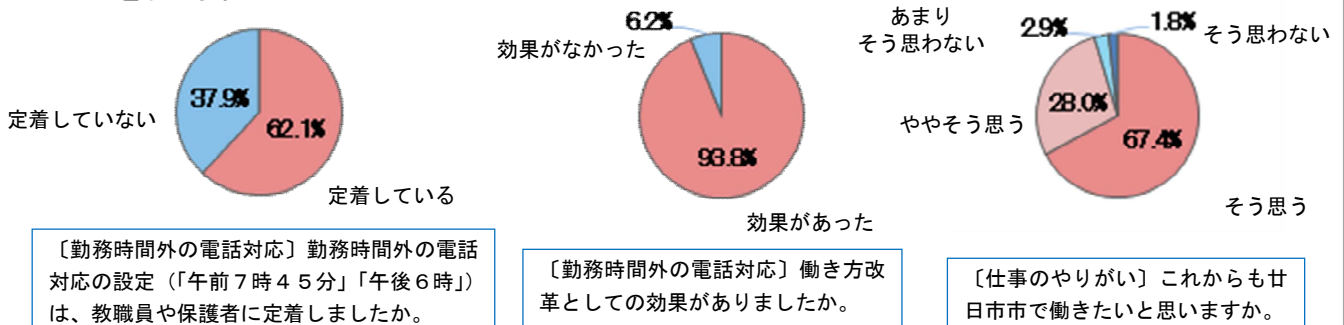
本市の児童生徒等の新型コロナウイルス感染が急激に増加しており、学校においても今まで以上に感染症対策に努めていただいていることと思います。引き続き外からウイルスを持ち込まないよう、一人一人が意識して行動することが大切です。年度末に向けて忙しくなる時期ですが、子ども達も先生方も体調を崩さないよう、気を付けていきましょう。

今回は、『今後の取組をよりよくするためのアンケート』の結果（働き方改革編）」と「全国学校給食週間」について紹介します。



## 「廿日市市で働きたい」と思える職場づくりを！ ～「今後の取組をよりよくするためのアンケート」の結果より～

市教育委員会では、今後の施策検討に向けて必要な改善や見直しを図るため、市内小・中学校の先生方を対象に「今後の取組をよりよくするためのアンケート」を実施しました。働き方改革に関する設問と結果は次のグラフの通りです。



勤務時間外の電話対応については、「効果があった」という回答がほとんどでした。

「これからも廿日市市で働きたい」と肯定的に考えている教職員が9割を超えていました。「教職員間の協力体制がよい。」「廿日市市が好き。」「勤務校の仕事が楽しい。」「職場の雰囲気よい。」「非常勤や臨探などの配置が充実している。」等の理由がありました。

今回のアンケートで、先生方から多くの意見や提案をいただいています。今後、「廿日市市で働きたい」という先生方がさらに増えるよう、これらの意見を参考に、今後の取組に生かしていきます。

1月24日(月)～30日(日)は **全国学校給食週間** です

### \*「全国学校給食週間」とは

戦後、学校給食が海外からの支援で再開されたことを記念するものです。

期間中は、学校給食の意義や役割について理解を深めてもらおうと各地で取組や行事が行われます。

### \*学校給食の意義と役割

学校給食は、子どもたちの心を豊かにし、食に関する正しい知識と望ましい食生活を身に付けるための健康教育の一環として、重要な役割を担っています。

新型コロナウイルス感染症が流行する今こそ、栄養バランスのとれた食事はとても大切です。現在、食事中は黙食をしなければならず、従来の楽しい給食の時間とはかけ離れたものになっているかもしれませんが、様々な機会を捉え、方法・手段を工夫しながら、食事の大切さや食べることの楽しさを伝えていきましょう。

### \*廿日市市の取組

市内小・中学校では、この期間に、地域の食材を使用した料理、行事食、広島県や日本各地の郷土料理などが給食に登場します！また、市のフェイスブックでも学校給食のことを毎日投稿する予定です。お楽しみに♪

#### 【取組紹介】平良小学校の取組



期間：12月15日～1月17日

対象：全校児童・教職員

内容：全国学校給食週間に向けて、給食川柳を募集。給食委員会で給食川柳を作成し、掲示を行った。

## 目指せ！日本一の図書室！

今年度から始まった「目指せ！日本一の図書室！！プロジェクト」。今年度のプロジェクトも完成に近づいてきています。

今回は、野坂中学校の図書室を紹介します。

Before



先生方、保護者の方々の協力を得ながら作業しました。

After



カウンター後ろの壁をレンガ調に一新！

修繕の跡が見られていたカウンターの側面も、きれいな壁紙で張り替え。

新しくなった図書室で、どんな本に出会えるか、子ども達も楽しみにしていると思います！

## 特別支援教育の視点に基づいた学習指導と生徒指導

新学習指導要領において、「情報活用能力」が全ての学習の基盤となる資質・能力として位置付けられ、学校の実態に即して学校教育の情報化を組織的に推進することが重要となってきます。

【特別支援教育におけるデジタル機器の活用の必要性】

障害の状態や特性やそれに伴う学びにくさは、多様かつ個人差が大きく、障害のない児童生徒以上に「個別最適化した学び」⇔「特別な支援」が必要。

○身体障害による学習上の困難

- ・視覚障害（見えない・見えにくい）
- ・聴覚障害（聞こえない・聞こえにくい）
- ・肢体不自由（動けない・動きにくい）
- ・病弱（病気による様々な制約）

→障害特性に応じた ICT 機器や補助具の活用が必要

○知的障害や発達障害による学びにくさやコミュニケーションの困難

- ・知的障害（理解や意思疎通が困難）
- ・発達障害（様々な学びにくさ）

→理解や意思表示を支援するために ICT 機器の活用が有効

【文部科学省（R2）「特別支援教育におけるICTの活用について」】

例えば…

授業でタブレット端末を用いるよさとして、**くり返してできる、失敗を少なくする、「できた」という実感を得られる**などが挙げられます。



## ICT活用への道

タブレットをこうして活用しています！番外編③

これまで、熊本市へ先進校視察に行ってきたときの授業について具体的な授業例をご紹介します。

実践例として紹介した他にも、小学校2年生の国語、中学校2年生の理科など、子ども達がタブレットを使って、いきいきと思考していく姿を見てきました。

その根底には、どうやってICTを使うかではなく、どうやって子どもたちに思考させるのかという、授業のあり方を変えていくという考えがありました。

### 「教師から教わる授業から子どもたちが学び取る授業に変える」

そうした授業づくりをしていく中で、活用できるものは何かと考えた時に、「タブレット端末」を活用すれば、効果があるのではないかという発想になっていると、熊本市の授業を見て実感しています。

実際、熊本市のある中学校の生徒のみなさんから出た「ICT機器活用の効果」が次の通りです。

基本的な検索機能の利用を越えて、

- 思考（関連付け、相関、関係の変化など）の可視化がしやすいこと。
- 図の操作で思考したり、表現したりできること。
- 音楽の創作など、アナログでは困難だった創造的な内容の学びが可能となること。

子どもたちから出された感想は、とても貴重です。廿日市市においても、10年後、20年後を見据えて、子どもたちの思考がより深まる授業づくりを進めていきましょう。

熊本市

